

平成30年12月5日  
福井県知事 西川 一誠

## 原子力の課題解決に向けた論点について

- ・今回、「課題解決に向けた議論の視点」(P41)として示された項目のうち、原子力発電所の安全性の追求や廃棄物問題という課題の解決に向けた「イノベーション」に関しては、民間主導で行うとともに、エネルギー安全保障という事業の性質上、国が開発の目的・目標時期など、長期的な研究開発のビジョンを示さなければならない。
- ・また、原子力の「イノベーション」を進めるためには、英米仏などの原子力先進国や大学・研究機関との連携を強めながら、優秀な人材を確保・育成することが不可欠である。国は、原子力の将来像を明確に示し、試験研究炉をはじめ研究基盤の整備を早期に進めるなど、原子力に携わる若者の将来を保証する環境を整えることが必要である。
- ・「立地地域」の振興については、廃炉が地域経済に及ぼす影響が大きいことから、発電所が更地化されるまでの財政措置を早急に制度化することにより、これまで安全を支えてきた関連企業の維持を図る必要がある。さらに、豊かな自然を有する立地地域の地理的特性を活かした農林水産業や観光など新分野への進出・雇用の確保に対する支援を強化すべきである。
- ・国は、40年超運転、使用済燃料対策やプルサーマルの問題など、原子力政策の様々な課題について正面から向き合い、責任ある政策を着実に実行する必要がある。

公務のため会議に出席できないので、上記のとおり意見を提出します。